

Pietà

ピエタ

知っておきたいキリスト教のことば (169)

ピエタ ぴえた

「ピエタ」とは憐れみや慈悲という意味をもつイタリア語です。キリスト教美術においては、十字架上で息を引き取られ、十字架から降ろされたイエス様と、そのからだを腕に抱く母マリアをモチーフとする聖母子像の宗教画や彫刻などを指します。

特に有名なのは、イタリアのサン・ピエトロ寺院にあるミケランジェロ・ディ・ロドヴィーコ・ブオナローティ・シモーニが作成したものでしょう。彼は大理石の一枚岩から二年を要して、壮麗な彫刻を作り上げます。

ミケランジェロはその作品の中に、彼の信仰をあらわします。当時イエス様の母マリアは、ピエタにおいて悲しみに沈む年配の女性として描かれることがほとんどでした。しかし彼は母マリアを、若々しく穏やかな人物として描きます。その結果息子であるイエス様よりも若く見えるため、当時の枢機卿は「これはマグダラのマリアではないか」と疑問を投げかけたそうです。

ミケランジェロはこれに対し、「聖母マリアは無原罪(カトリック教会の教義で、マリアはその存在の最初である母アンナの胎内に宿った時から原罪を免れていたとする)なので、年を取ることはない」と言い切ったそうです。

イエス様の母マリアはヨセフと結婚する前に受胎告知を受け、みごもりました。イエス様の誕生のときには羊飼いたちがやってきて、不思議なことを告げていきました。マリアはそれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていきました。

十字架から降ろされたイエス様を抱くマリアの心情は、想像するだけで辛いものがあります。しかしそのイエス様の死が、わたしたちのいのちに繋がっていることを、いつも心に留めていきたいものです。

今回は「光」です。楽しみに。



「サン・ピエトロのピエタ」

ミケランジェロ

(1475-1564 年)

この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。。

(マタイによる福音書 27 章 58 節)

